

2021年3月期 決算説明会

2021年5月13日
副社長 齊藤 雅也

2021年3月期の概況

□ 概況

- 新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大の影響により、減収となったものの、経常利益、当期純利益は過去最高を更新。

□ 国内市場

- 新型コロナウイルス感染症の再拡大が進んだことによる影響やマスク文化の定着で減収減益。
- 子会社が売上・利益に貢献。
- インバウンド需要は低迷するが、越境ECは堅調。

□ 海外は減収ながらも欧米は増益

- インドネシアや台湾、ベトナムなどは好調なもの、中国や香港などが減収減益。
- 欧米諸国は減収ながらも、販管費の効率的活用により増益。

□ 17期連続増配で、年間配当金28円。

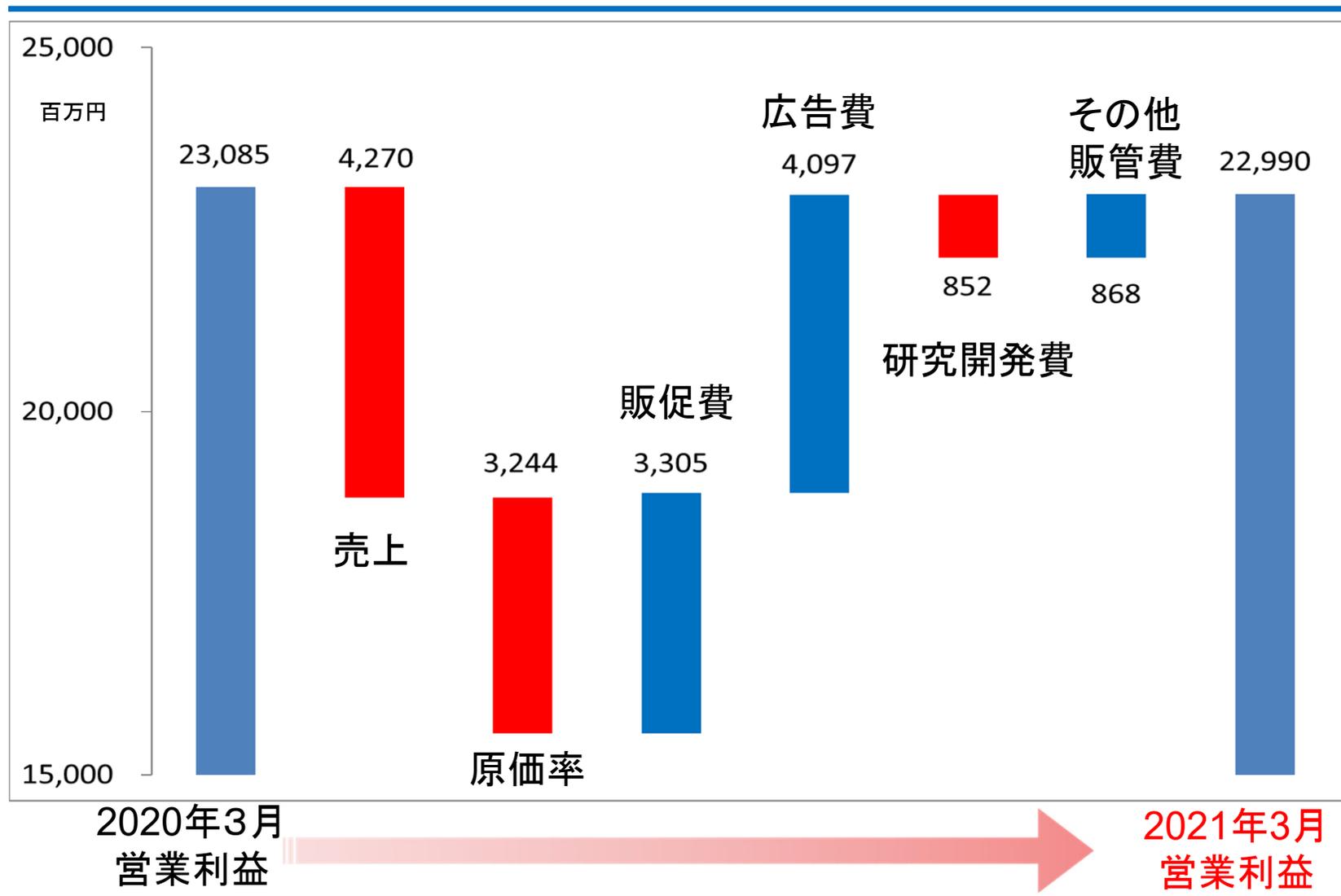
連結損益

(単位 百万円,%)

	2021年3月期	売上高比	2020年3月期	増減額	増減率
売上高	181,287	100.0	188,327	△7,040	△3.7
売上原価	74,561		74,087	474	0.6
原価率	41.1		39.3		
販管費	83,736	46.2	91,154	△7,418	△8.1
販促費	20,228	11.2	23,533	△3,305	△14.0
広告費	20,297	11.2	24,394	△4,097	△16.8
研究費	7,903	4.4	7,050	852	12.1
その他	35,307	19.5	36,175	△868	△2.4
営業利益	22,990	12.7	23,085	△95	△0.4
経常利益	23,910	13.2	22,735	1,175	5.2
親会社株主に帰属する純利益	16,743	9.2	15,410	1,332	8.6

為替レート:USDドル=105.96円(前年同期 109.05円)

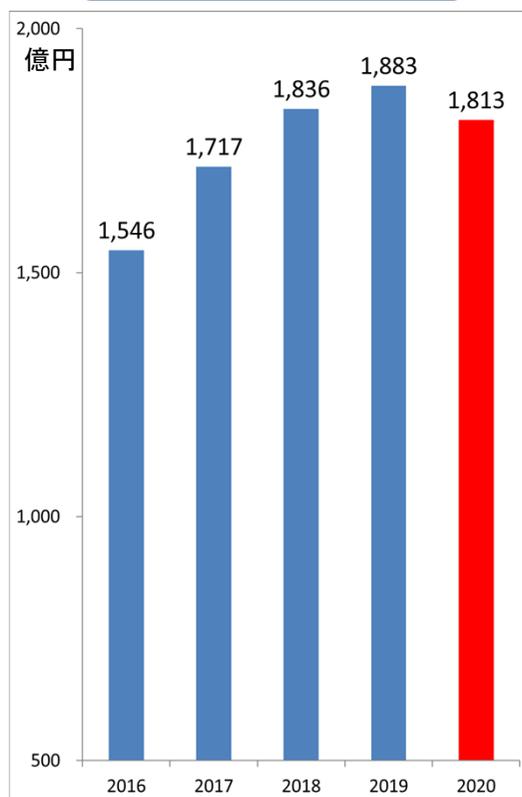
連結営業利益の増減



業績推移(5年)

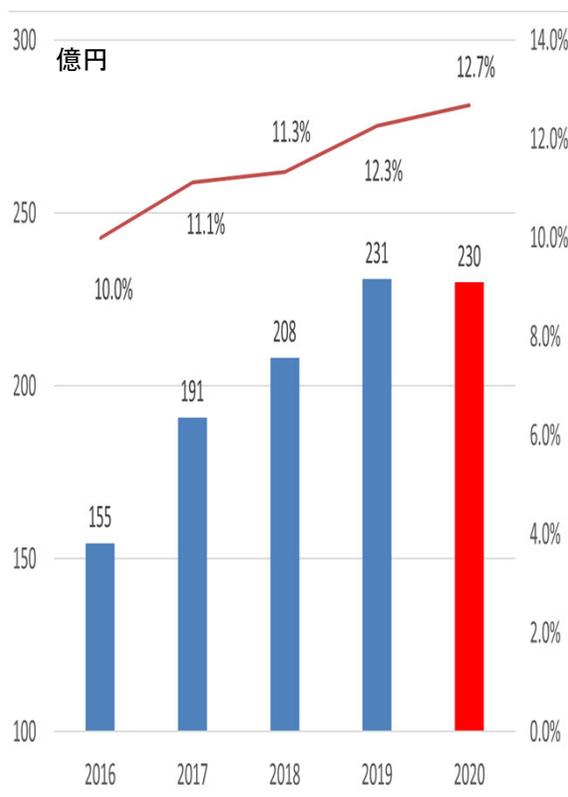
売上高

5年平均増収率
1.9%



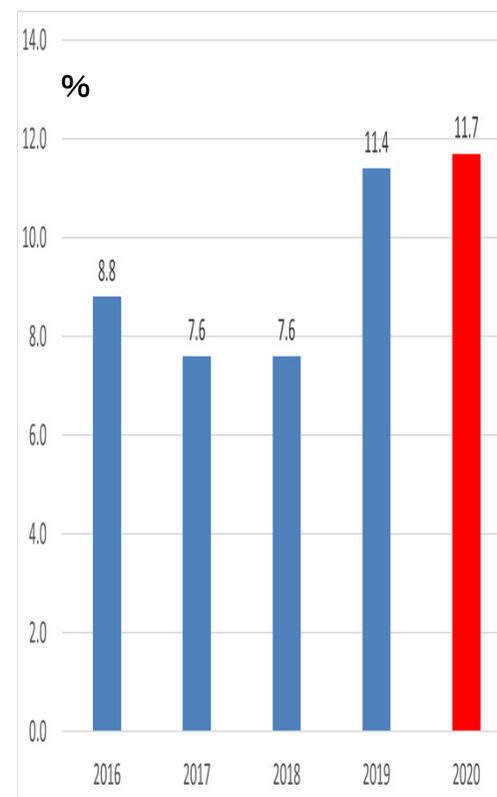
営業利益

営業利益率
12.7%

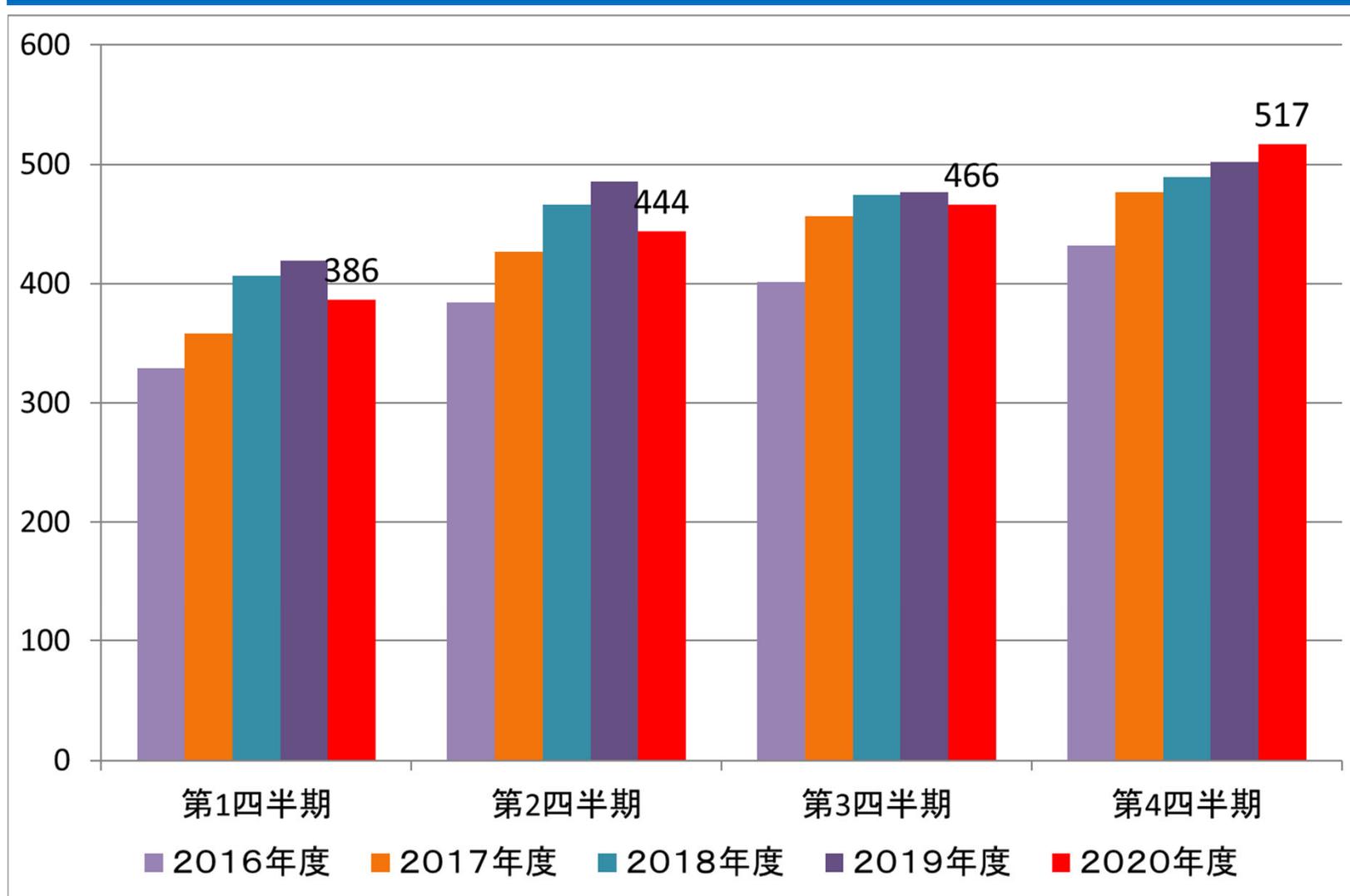


ROE

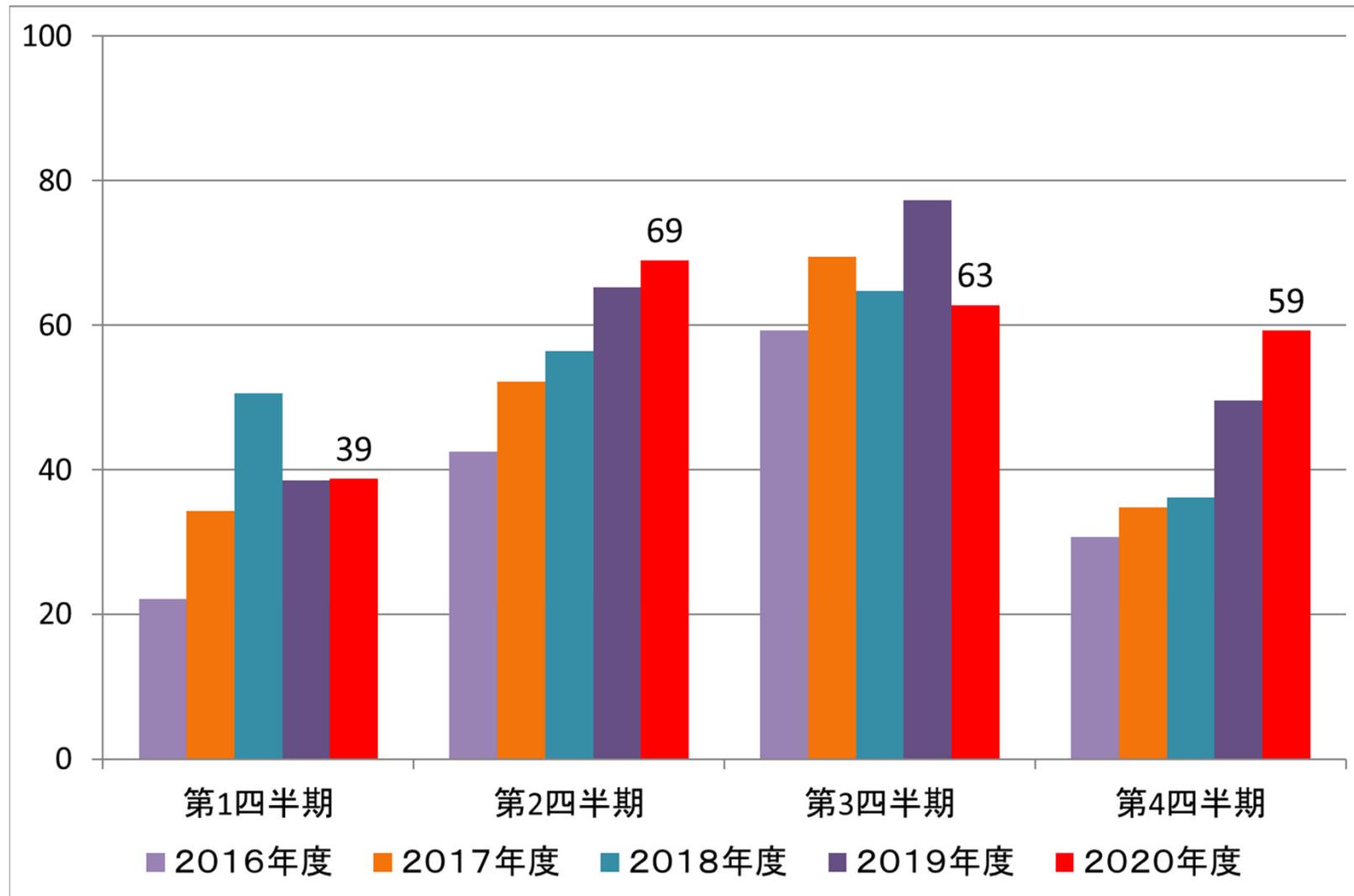
5年平均 **9.4%**



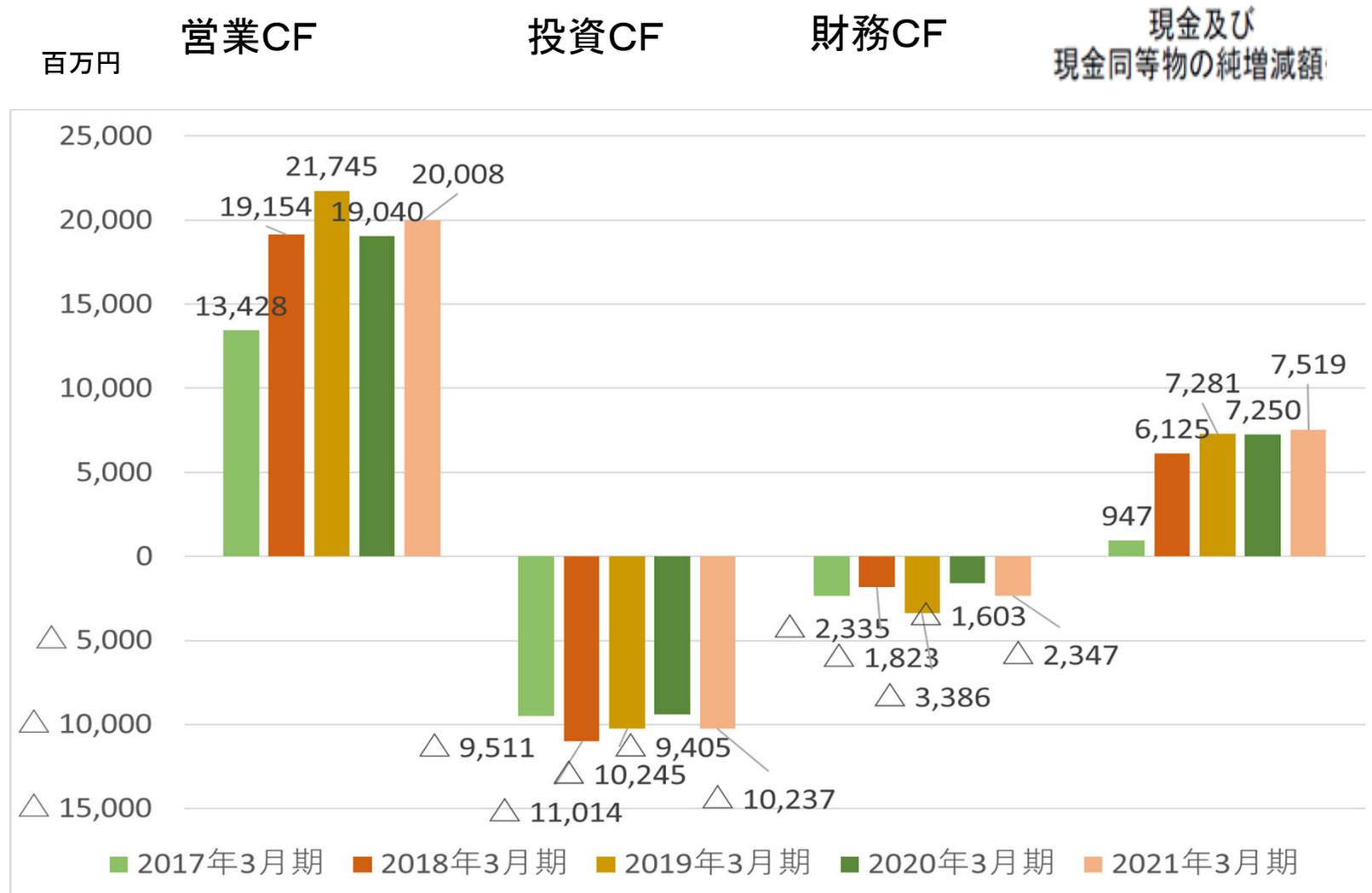
四半期別売上推移



四半期別 営業利益推移



中長期の投資を実施しながら、 フリーキャッシュ・フローはプラス



報告セグメント別売上

(単位:百万円、未満切捨、%)

		2019年3月期		2020年3月期		2021年3月期			
		金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
売上高		183,582	100.0	188,327	100.0	181,287	100.0	△ 7,040	△ 3.7
報告セグメント	日本	112,166	61.1	115,767	61.5	115,629	63.8	△ 138	△ 0.1
	アジア	51,664	28.1	52,971	28.1	48,056	26.5	△ 4,915	△ 9.3
	アメリカ	9,293	5.1	9,121	4.8	7,687	4.2	△ 1,434	△ 15.7
	ヨーロッパ	8,555	4.7	8,740	4.6	8,149	4.5	△ 590	△ 6.8
	計	181,679		186,601		179,522		△ 7,078	△ 3.8
その他		1,903	1.0	1,726	0.9	1,764	1.0	38	2.2
為替レート (USドル/円)		110円48銭		109円05銭		105円96銭			

※ 売上高は外部顧客に対するものです

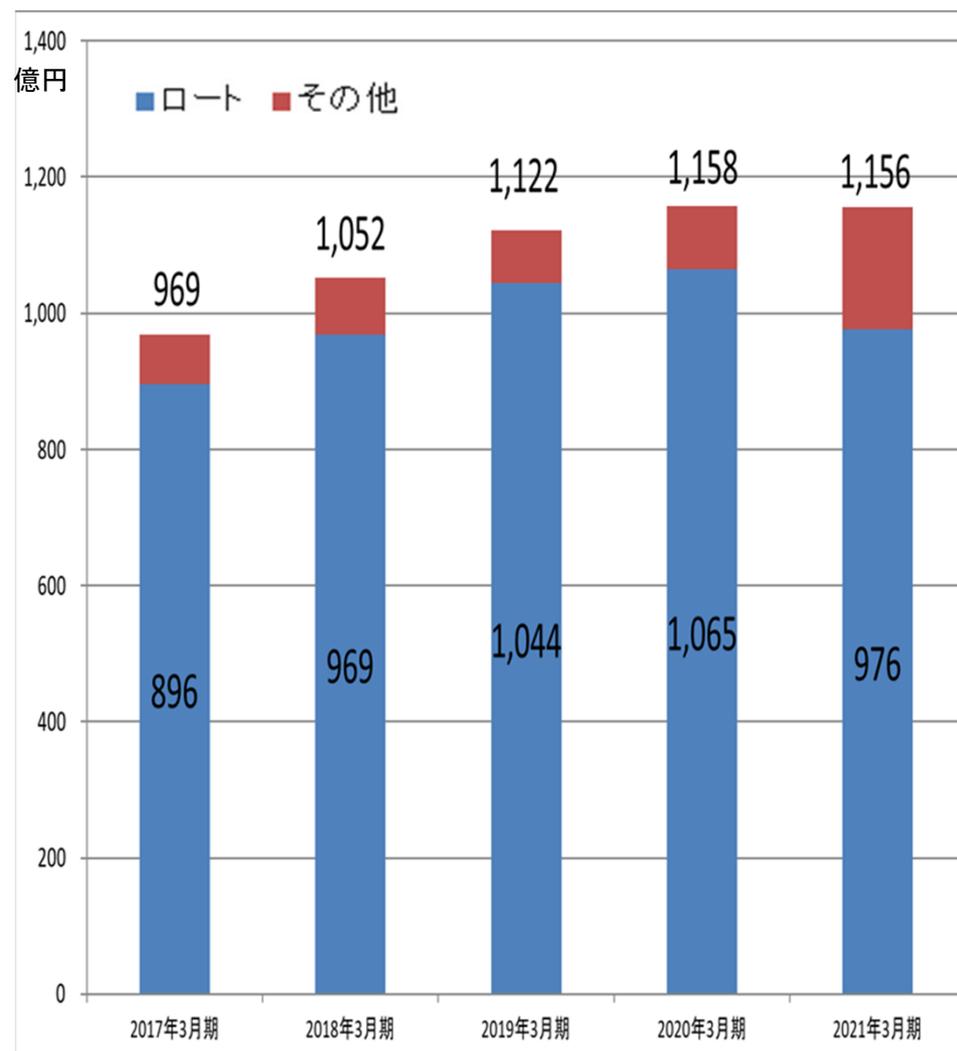
報告セグメント別営業利益

(単位: 百万円、未満切捨,%)

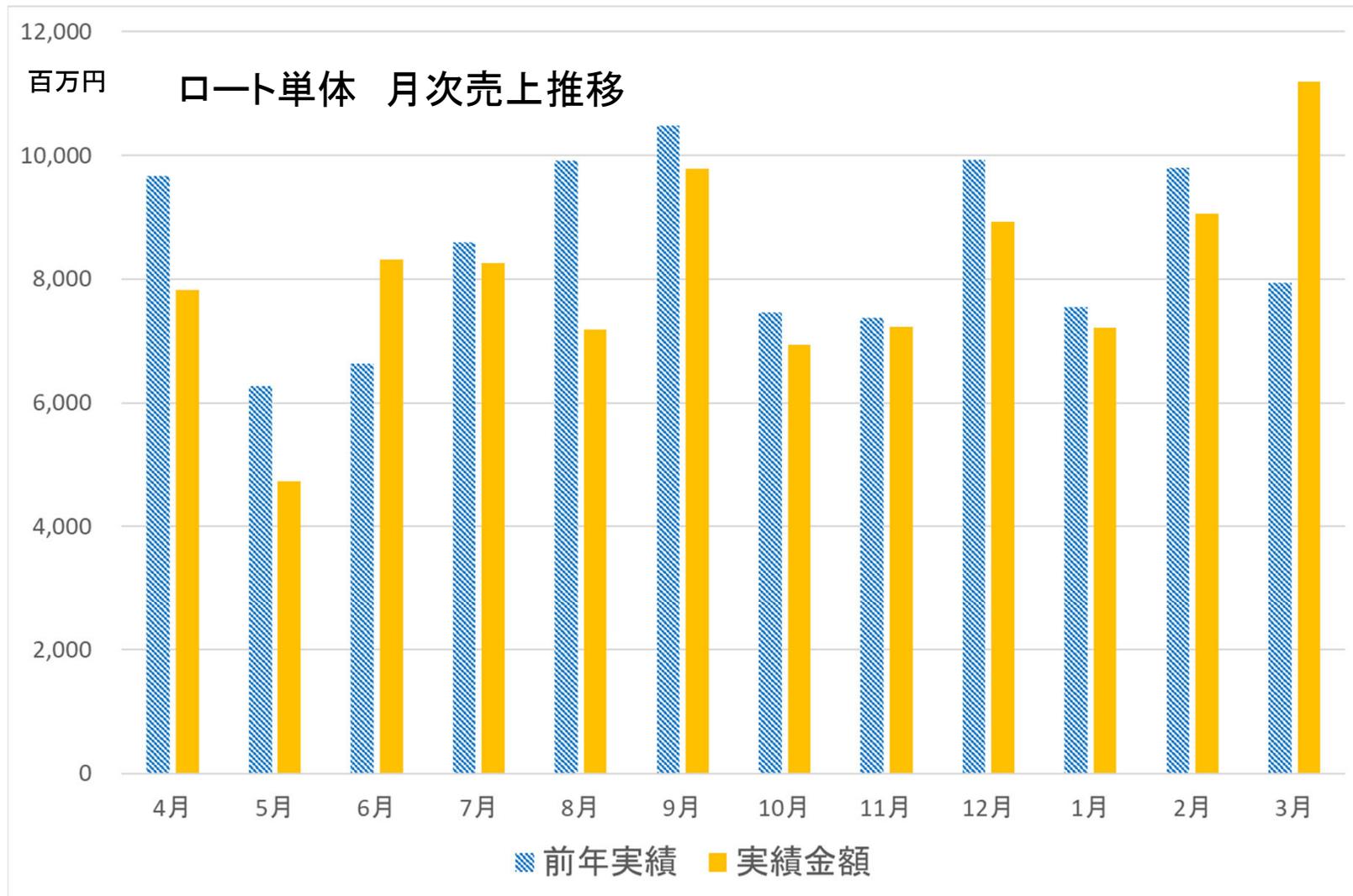
	2019年3月期		2020年3月期		2020年3月期				
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率	
営業利益	20,812	100.0	23,085	100.0	22,990	100.0	△ 95	△ 0.4	
報告セグメント	日本	13,181	63.3	14,852	64.3	14,656	63.8	△ 195	△ 1.3
	アジア	6,497	31.2	7,220	31.3	6,926	30.1	△ 294	△ 4.1
	アメリカ	286	1.4	283	1.2	458	2.0	174	61.5
	ヨーロッパ	352	1.7	217	0.9	375	1.6	157	72.6
	計	20,317		22,573		22,416		△ 157	△ 0.7
その他	163	0.8	142	0.6	118	0.5	△ 24	△ 17.0	
調整額	330	1.6	369	1.6	455	2.0	85	23.2	
為替レート (USドル/円)	110円48銭		109円05銭		105円96銭				

日本 減収減益

- 日やけ止め、リップクリーム、コンタクト関連品が減収
- デオコやメラノCCなど話題の商品は堅調
- 日本点眼薬研究所やクオリテックファーマなどが貢献
- インバウンド需要は減少



ヘルスケア関連売上の推移



好調な商品群

□ SNSで話題

□ DEOCO



□ メラノCC



□ 「和漢箋」



□ 高額目薬との連動した店頭展開で好調持続する「ロートV5粒」



インバウンド売上 約12億円

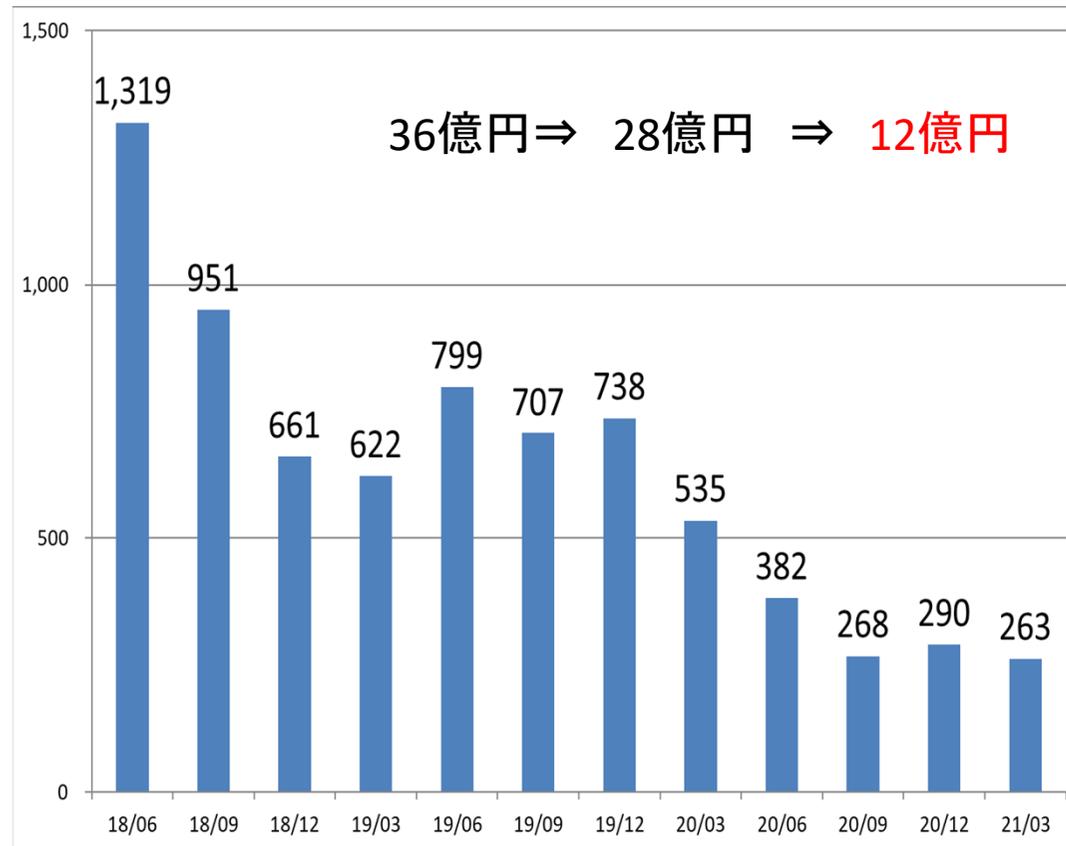
新型コロナウイルスの影響で、スローダウン。



圧倒的人気のメロCC シリーズ



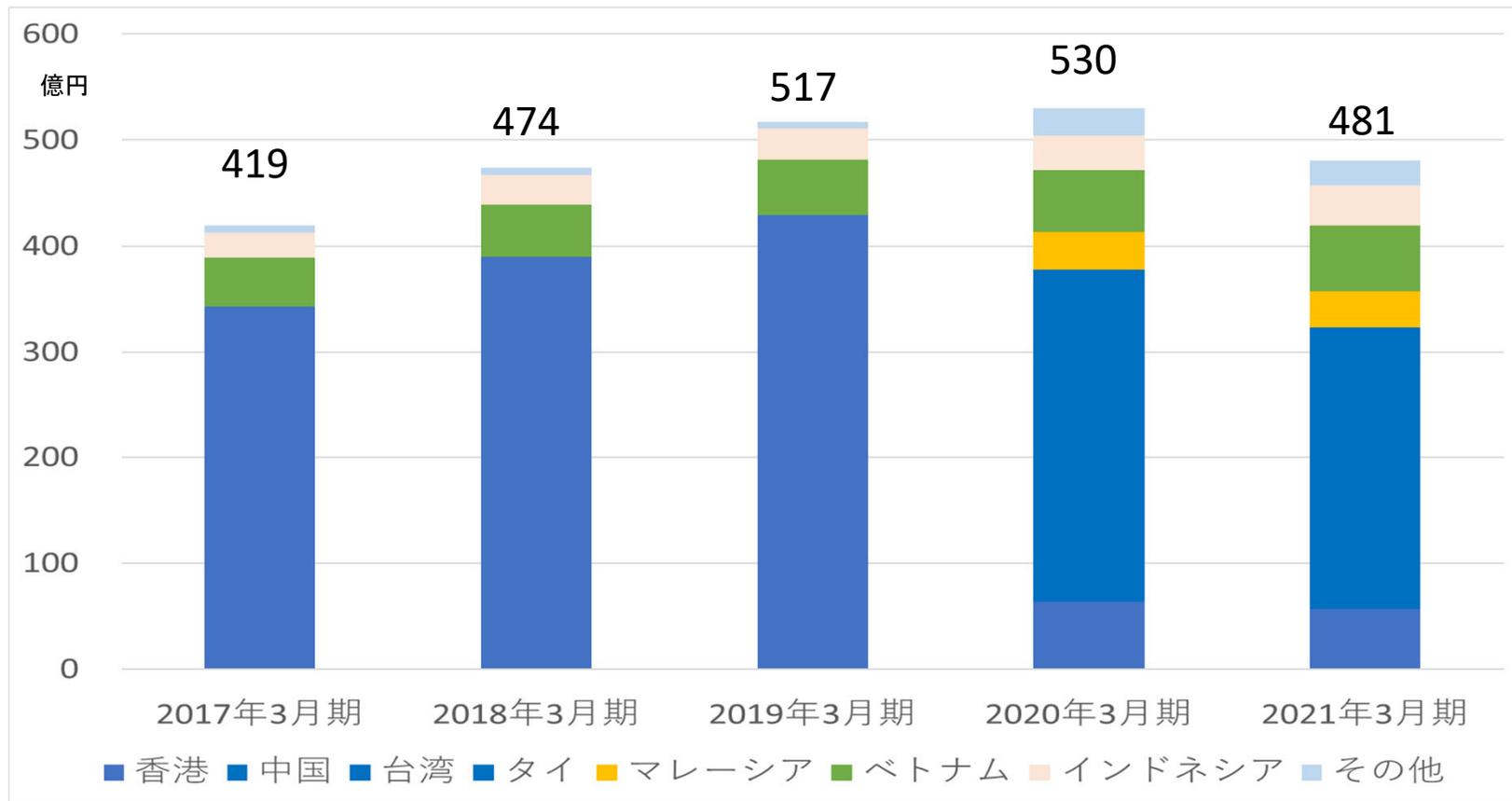
越境ECが堅調



インバウンド関連四半期売上の推移

アジア 減収減益

新型コロナウイルス感染症の影響を年度を通じて効果的にコントロールした地域は堅調



アジア 減収減益

売上高	480億56百万円	前期比	△9.3%減
営業利益	69億26百万円	同	△4.1%減

- 主力の中国・香港が大幅な減収
- インドネシア・ベトナム・台湾は増収。

□ インドネシア	17%増	(22%増)	12月決算
□ ベトナム	2%増	(5%増)	12月決算
□ 台湾	2%増	(△1%減)	2月決算
□ 中国	△17%減	(△15%減)	12月決算
□ 香港	△10%減	(△9%減)	2月決算
□ マレーシア	△6%減	(△2%減)	2月決算

() 現地通貨比較

アメリカ・ヨーロッパ 他

□アメリカ

売上高	76億87百万円	前期比	△15.7%減
営業利益	4億58百万円	同	61.5%増

- 外出自粛の影響もあり、目薬・リップクリーム等が減収
- 広告宣伝費の効率的活用により増益

□ヨーロッパ

売上高	81億49百万円	前期比	△6.8%減
営業利益	3億75百万円	同	72.6%増

- 化粧品が主力のDAX社が減収
- 販促費・広告費の効率的活用により増益



NEVER SAY NEVER

ロート製薬

2022年3月期 業績予想と中長期の成長戦略

2021年5月13日

代表取締役会長 山田 邦雄

代表取締役社長 杉本 雅史

次期見通し ポイント

- 新型コロナウイルスの影響は続くが、日本・アジアを中心に回復傾向
 - 2021年度より新収益認識基準適用の影響により減収見通しであるが、実質的には5.4%の増収見通し
 - 中長期の持続的成長への取組
 - コアビジネスの強化・事業改革の成果
 - 再生医療・眼科医療用医薬品の取組
 - ニューノーマル時代への対応
 - 18期 連続増配予定
-

次期 業績見通し

(単位:百万円、未満切捨,%)

	2020年3月期	売上比	2021年3月期	売上比	2022年3月期 予想	売上比	増減額	前期比
売上高	188,327	100.0	181,287	100.0	182,000	100.0	—	—
営業利益	23,085	12.3	22,990	12.7	23,100	12.7	109	0.5
経常利益	22,735	12.1	23,910	13.2	23,900	13.1	△ 11	△ 0.0
親会社株主に帰属 する当期純利益	15,410	8.2	16,743	9.2	17,100	9.4	356	2.1
1株当たり 当期純利益(円)	135.13		146.78		149.91			

為替レート
 USD/円

109円05銭

105円96銭

108円

※2022年3月期売上高予想は新収益認識基準を適用している為、増減額、前期比は記載していません

新収益認識基準の適用による影響

□2021年度より新収益認識基準を適用
 実質的には5.4%の増収見通し！

(単位:百万円、未満切捨,%)

	2021年3月期 (旧基準)	売上比	2021年3月期 (新基準)	売上比	2022年3月期 予想	売上比	増減額	前期比
売上高	181,287	100.0	172,643	100.0	182,000	100.0	9,356	5.4
営業利益	22,990	12.7	22,973	13.3	23,100	12.7	126	0.6
経常利益	23,910	13.2	23,893	13.8	23,900	13.1	6	0.0
親会社株主に帰属 する当期純利益	16,743	9.2	16,726	9.7	17,100	9.4	373	2.2

報告セグメント別売上予想

(単位:百万円、未満切捨,%)

	2020年3月期		2021年3月期		2022年3月期予想				
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率	
売上高	188,327	100.0	181,287	100.0	182,000	100.0	—	—	
報告セグメント	日本	115,767	61.5	115,629	63.8	111,300	61.2	—	—
	日本新基準	106,948		106,985		111,300	61.2	4,314	4.0
	アジア	52,971	28.1	48,056	26.5	51,800	28.5	3,743	7.8
	アメリカ	9,121	4.8	7,687	4.2	8,200	4.5	512	6.7
	ヨーロッパ	8,740	4.6	8,149	4.5	8,800	4.8	650	8.0
	計	186,601		179,522		180,100		577	0.3
その他	1,726	0.9	1,764	4.0	1,900	1.0	134	7.7	
為替レート (USドル/円)	109円05銭		105円96銭		108円				

※ 売上高は外部顧客に対するものです

※日本セグメントは、新収益認識基準適用を勘案した試算です。

報告セグメント別営業利益予想

(単位:百万円、未満切捨,%)

		2020年3月期		2021年3月期		2022年3月期予想			
		金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
営業利益		23,085	100.0	22,990	100.0	23,100	100.1	109	0.5
報告セグメント	日本	14,852	64.3	14,656	63.8	14,300	62.0	△ 356	△ 2.4
	アジア	7,220	31.3	6,926	30.1	7,600	32.9	673	9.7
	アメリカ	283	1.2	458	2.0	400	1.7	△ 58	△ 12.7
	ヨーロッパ	217	0.9	375	1.6	300	1.3	△ 75	△ 20.0
	計	22,573		22,416		22,600		183	0.8
その他		142	0.6	118	0.5	100	0.4	△ 18	△ 15.5
調整額		369	1.6	455	2.0	400	1.7	△ 55	
為替レート (USドル/円)		109円05銭		105円96銭		108円			

中長期の持続的成長への取組

Connect for Well-being

□ OTCリーディングカンパニー へ進化

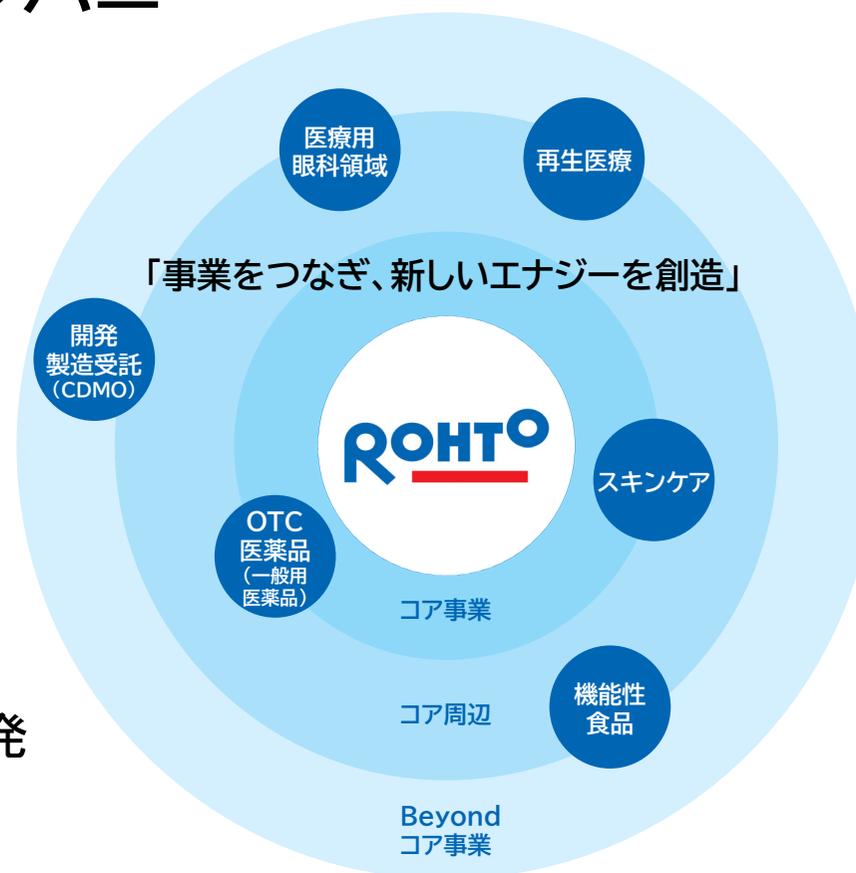
- スキンケア領域
- 機能性食品

□ 医療用医薬品

- 再生医療
- 眼科領域

新薬開発・医療機器開発

□ 開発製造受託 (CDMO)



□コアビジネスの強化

- 高付加価値目薬・漢方薬・皮膚用薬OTCを強化
- 業務改革の深化と自走化
- 生産設備の増強　スマート工場を増設
- 海外展開～アジアの成長加速へ

□スキンケア領域

- オバジ20周年



□機能性食品開発強化

コアビジネスの強化

□業務改革の深化と自走化

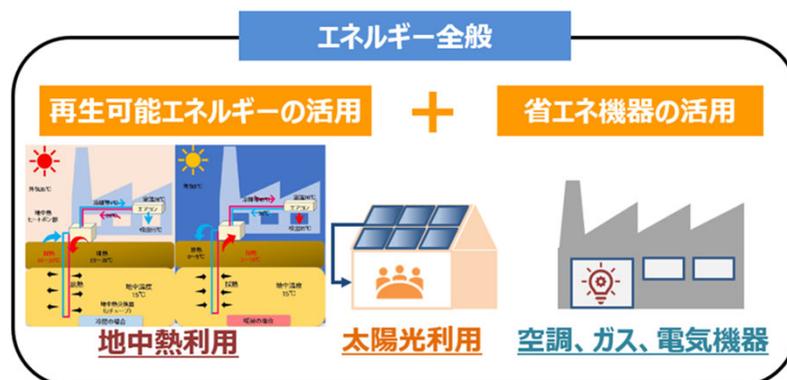
□内製化比率の向上

- ・生産効率化による内製化促進

□在庫の適正化

□販管費の効率的活用

□生産設備の増強 スマート工場を増設

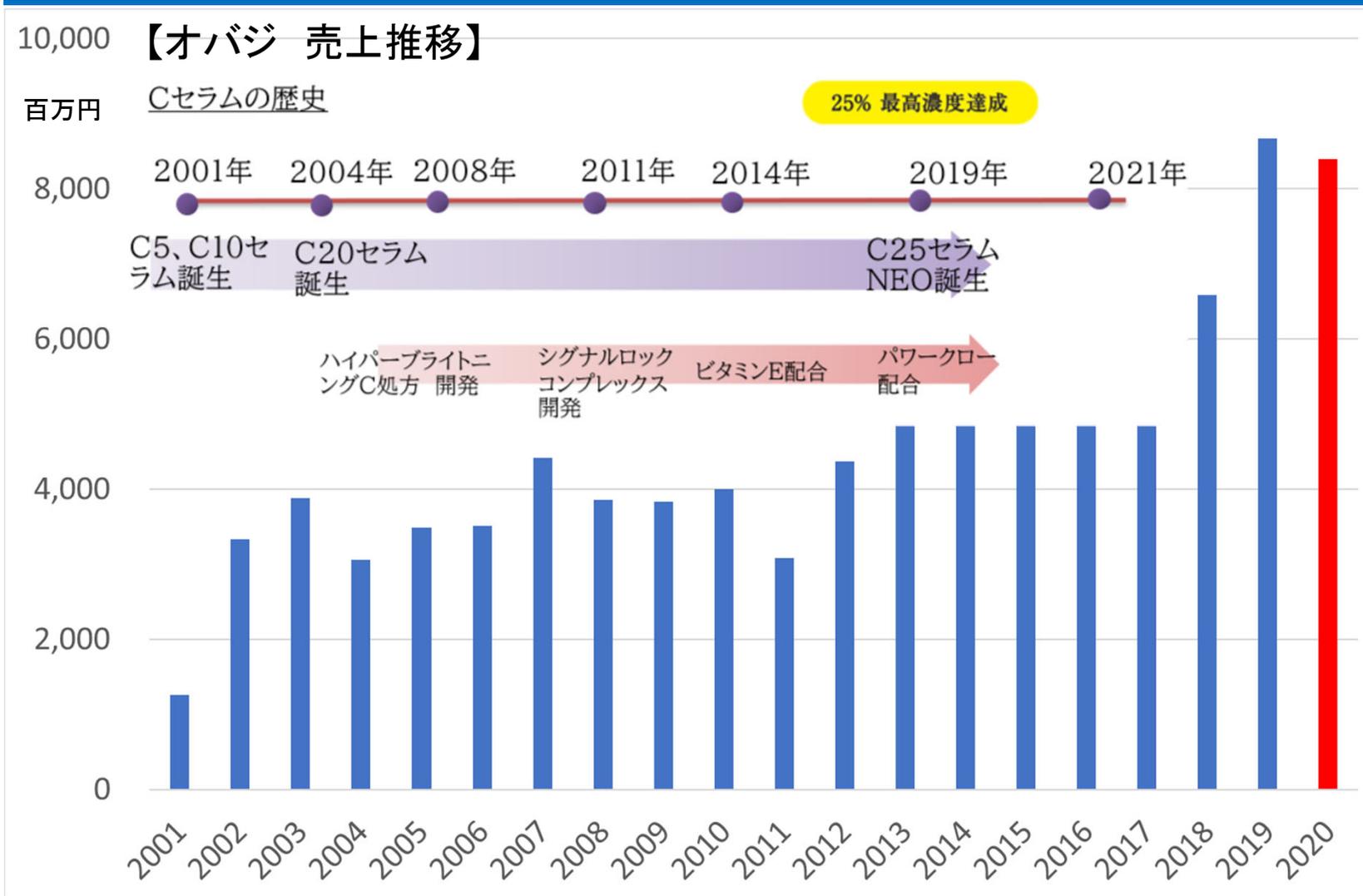


海外展開～中国市場の回復～

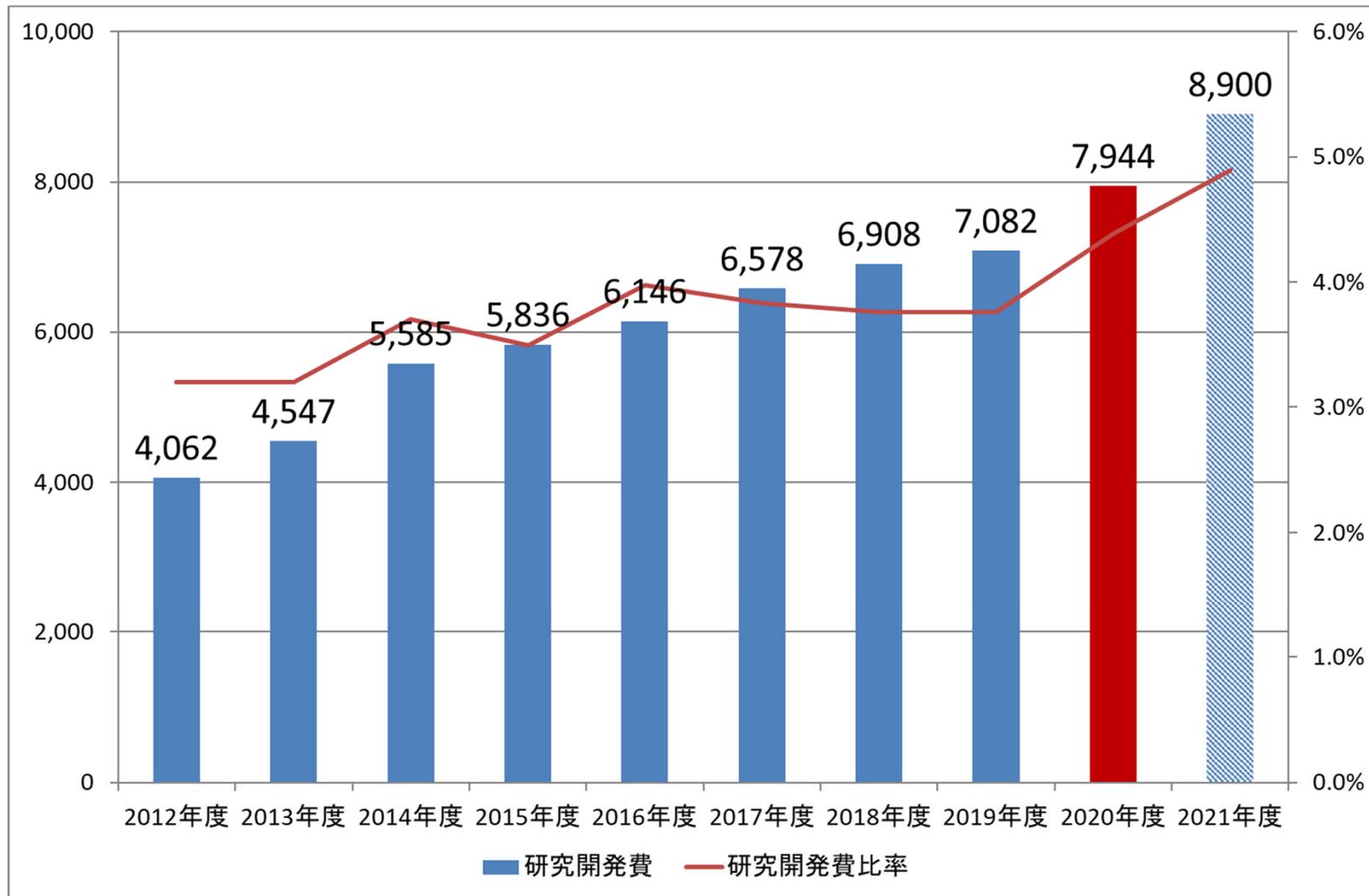
- 新型コロナの影響が一巡してくるものの、マスク文化の定着の影響は残る。外出自粛の減少によって日焼け止めは好調。
- EC比率の拡充
 - 中国のEC比率は35%。次年度は40%を見込む
 - 主要ECサイトにおける販売プラットフォームは構築できている
 - EC販売強化策
 - デジタルコミュニケーション・プロモーションの強化
 - インフルエンサーとのコラボ
 - YouTubeやTikTokでの映像配信



スキンケア関連 ～オバジ 20周年 ベース処方の変革～



積極的な研究開発



医療用医薬品

□再生医療

□オリンパスRMS(株) 取得（現インターシステム社）

□整形外科領域を追加し再生医療事業を加速

□膝関節の軟骨欠損を対象とした治験を継続中

□眼科用医療用医薬品

□ヤヌス・キナーゼ阻害剤「ROH-201」の国内前期第二相試験開始

□ドライアイ患者を対象とし、有効性および安全性について評価を進める予定。

□バイオベンチャーとの共同開発研究契約締結

再生医療の進捗(2021年5月)

Products	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
ヒト脂肪由来幹細胞						
肝硬変		臨床				
重症心不全	非臨床		臨床			
腎疾患	非臨床		臨床			
重症下肢虚血		非臨床		臨床		
肺線維症	非臨床		臨床			
骨関節疾患		非臨床		臨床		
新型コロナ肺炎			臨床			
ヒト臍帯由来幹細胞						
神経変性疾患		非臨床		臨床		
インターステム株式会社 軟骨細胞キット						
外傷性軟骨欠損		臨床				
変形性膝関節症			非臨床		臨床	

開発製造受託の進展

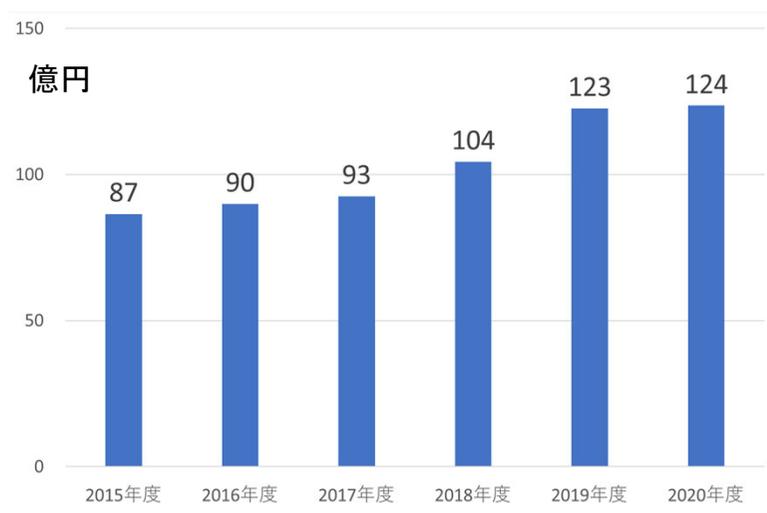
開発製造受託子会社「クオリテックファーマ(株)」

□ 2016年度より5カ年増収

□ 近年、製剤開発の受託が増加。今後も増加傾向。

⇒ 開発体制の整備、強化を図る。

【CMO事業からCDMO事業への進化。ラボ設立へ】



売上推移



クオリテックファーマ 掛川工場

新型コロナウイルスの影響と ニューノーマル時代への対応

消費者の生活行動変化への対応

人々の健康に貢献できるヘルスケア企業として
商品や情報提供を強化

□生活行動の変化への対応

□ECチャネルの強化

□通販商品の拡充

□未病・予防領域での取組み強化

□漢方薬・機能性食品の強化

□価値観多様化や新たなニーズへの対応

□マーケティング戦略の深化

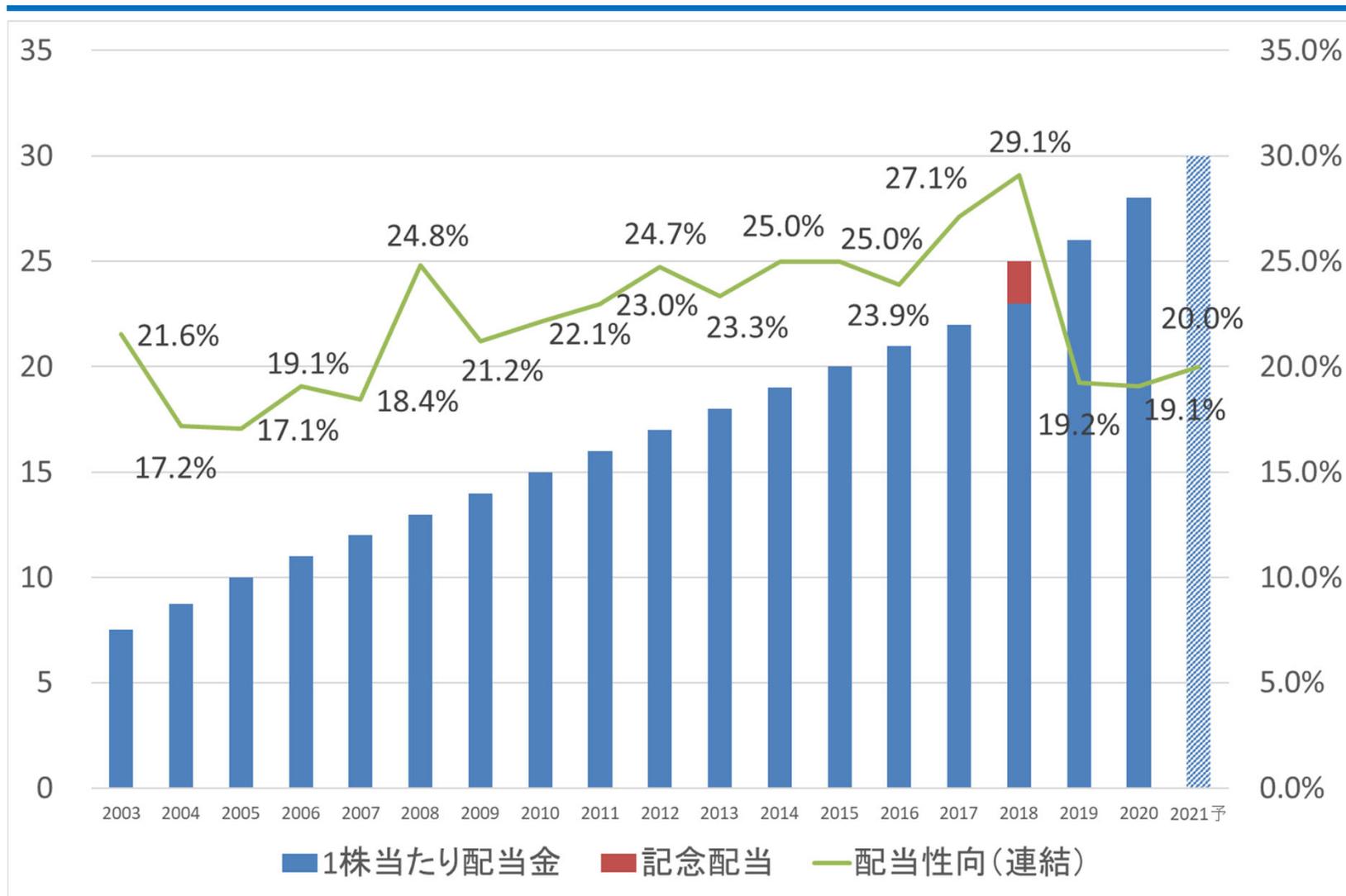
□DXへの取組

□健康経営の推進



SKIO

18期連続増配予定



新たなる成長ステージへ



＜注意事項＞

この資料に記載されている当社の現在の業績、計画、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現在入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断に基づいております。したがって、実際の業績は様々な要因の変化により記述している将来見通しとは大きく異なる可能性があることをご承知おきください。